

暖帯から温帯へと移り変わる森

賤母 生物群集保護林

設定目的

木曾谷南部（賤母）周辺の標高三〇〇〜五〇〇分の範囲には、温帯性針葉樹を主体としつつも常緑広葉樹が混在しており、太平洋側の温帯林から暖帯林への移行帯を形成しています。

これらは木曾谷の森林の中でも特異であり、地域固有の植生分布を含む森林生態系を一体的に保護しています。

地況・林況

当保護林は、長野・岐阜県境周辺の木曾川左岸に位置しています。

高木層は木曾ヒノキ、サワラ、モミ、ツガ等で、低木層はヒサカキ、ウラジロガシ、ヤブツバキ等の暖帯系の常緑広葉樹を多く含む森林となっており、その構成種は五〇〇種に及ぶとされています。

所在地
長野県 木曾郡 南木曾町
岐阜県 中津川市



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612

※詳細は、コードを読み込んでください。



シリーズ

中部の保護林(第27回)